視覚情報記号論レジメ 2

名古屋市立大学 2015 年度講義
久木田水生

1 パースによる記号関係の説明

パースは記号的関係を、**表現項**、**対象**、**解釈項**という三つの要素からなる三項関係として説明する（図1)。表現項は、一般に私たちが記号と考えるものであり、対象は表現項によって意味されるものである。解釈項は記号を与えられてそれによって対象へと差し向けられるものであり、典型的には記号を感覚し理解する人間（あるいは動物）である。パースは記号によって対象へと差し向けられるものがなければ記号関係は成立しない、と考えた。つまり解釈項がなければ記号も存在しないのである。パースの説明においては解釈項としては意識を持った人間的精神が主として念頭におかれているが、解釈項は必ずしもそのようなものに限られないと考える方が記号をより幅広い文脈でとらえるためには妥当だろう。例えば現代の社会においては様々な電子機器が互いに信号をやりとりして情報を通信・伝達している。またより原始的な生物や、生物の特定の器官もまた化学物質などを使って情報のやりとりをしている。これらの対象もまた解釈項として考えることができるだろう。

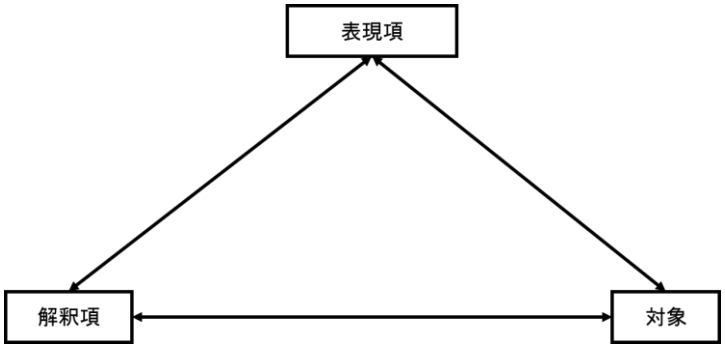

図 1 記号の三項関係

2 パースによる記号の分類

解釈項はいかにして表現項から対象へと差し向けられるのだろうか。これについてパースは三通りの仕方を区別し、それによって記号にも三種類の異なるものを区別している。それが**イコン**、**インデックス**、**シンボル**の区別である。イコンは対象との形態的類似性によって対象を意味する。例えばピクトグラムやコンピューターで用いられるアイコンなどである。インデックスは対象との近接や因果関係によって対象を意味する。例えば特定の形をした足跡が、それを残した人間の存在を意味するように。シンボルにおいては、表現項と対象の間にこのような必然的な連関はなく、人為的な取り決め・規約によってシンボルは意味を担わされる。例えば人間の話す言語などはシンボルの例である。

しかしこれらの間の区別は常に明確である訳ではなく、多くの記号は異なる種類の記号の特徴を併せ持っている。例えば漢字にはもともとそれが意味する対象の形を模したイコン的な性格のものもある。またローマ数字の XX は数 20 を表すが、X が数 10 を表すことはシンボル的な取り決めによっている一方で、X を二つ並べることで X が表す数の 2 倍の数を表すという仕方はイコン的である。また写真は対象に類似した形態を持っているという点ではイコン的だが、それが生み出された過程は物理的な作用によっているためインデックス的でもある。